

つなぐ



諫早市立大草小学校
特別支援教育
コーディネーターだより
H31.1.18 No.32
文責 林田

☺ 交流会 ☺

15日に実施されたダービースクールとの交流会では、日頃の外国語活動やイートタイムなどでの学習の成果を発揮して、アメリカの4年生の子どもたちと様々な活動を行いました。3年生以上は2回目なので少し余裕がありましたが、1・2年生は初めて。どきどきした表情が印象的でした。

子どもたちが3つの活動に取り組む様子を見ながら、担当の先生方にお話を伺うと、映像に合わせて体を動かしたり、ゲームなどで指先を動かしたりすることで、脳を活性化したり、授業に集中したりできるように工夫をしているとのことでした。

また、「動」と「静」の切り替えも、きちんと指導されていました。ダンスや昼休みの遊びでは、子どもたちは活発に体を動かしていましたが、教室移動の時や、話を聞く時は「静かに集中」できるようにハンドサインや言葉で指示を出されていました。

交流をすることで、私たち教師も、たくさんのことを学ぶことができました。

普段の生活と違う体験をすることは、子どもたち(私たち)にとって、とても良い刺激になると改めて感じた次第です。ご家庭でも、時々「非日常」を体験なさるのも良いかもしれませんね。☺



☺ 「非日常」と言われても… ☺

「『非日常』と言われても、ダービースクールに行くような特別なことは…」と思われるかもしれません。

「いえいえ、そんなに堅苦しくお考えになることはないですよ。」と申し上げておきます。

「非日常」とは、「**普段と少し違うことをする**」と考えていただければよいかと思います。例えば、次のようなことです。

兄弟姉妹がいる子には、「お母さんを独り占めできる時間」を作ってあげる。
たっぷり甘えられて、満足。☺



いつも、お母さんが相手をする事が多い子には、「お父さんと遊ぶ時間」を設ける。

お母さんと違った視点で、子育てができるかも。



入学式や卒業式など特別な日には、普段と違うおしゃれな服で登校させる。

入学式や卒業式のもつ意味合いも理解できます。



普段、車で出かけることが多いご家庭なら、近場でもいいので、バスや列車を利用してみる。

楽しい気分を味わいながら、公共の場でのマナーを学ばせることができます。



普段と違う、少し高級感のあるレストラン等に食事に出かける。
大人になった気分を味わい、食事のマナーがよくなるかも…。

子どもたちは、場面が変わると、大人以上に異なった表情を見せるものです。様々な体験をとおして学ばせたり、良い面を褒めたりしながら育てていけるといいですね。